

序（昭和 61 年 3 月、教育長小林弘）

上尾市は首都東京から 35 k m の距離に位置し、のどかな田園都市を形成しつつあります。

……。柏座遺跡は初めて市内の中心地の発掘調査として、縄文・弥生時代の住居跡をはじめ中世の遺構などを検出しました。

例 言

埼玉県遺跡番号	14212
文化庁指示通知	昭和 59 年 10 月 15 日付 59 委保記第 2-2930 号
発掘調査期日	1984（昭和 59）年 7 月 10 日～同年 10 月 6 日
発掘調査地	上尾市柏座 3-610-3 他
発掘調査面積	2,700 m ²
発掘調査組織	本文第 2 ページ

I 発掘調査の概要

I-〔1〕調査に至るまでの経過

……。昭和 58 年 5 月上尾駅西口で大規模な造成地を確認、現地調査を行ったところ。表土部分に多量の土器片が採集できた。本遺跡西側の舗装道路に接した掘削面にも住居跡と思われる遺構が見られ、付近一帯は埋蔵文化財包蔵地であることが確認できた。

……。上尾市教育委員会社会教育課内で検討し他結果、「文化財保護法第 57 条の 2 第 1 項の規定に基づき事前発掘をしなければならない」旨を回答した。（昭和 58 年 9 月 30 日付上教社第 399 号）

……。昭和 59 年 7 月初旬、「本年 10 月より開発工事に着手するので、至急発掘調査をお願いしたい」との口頭で依頼があり、……。昭和 59 年 7 月 10 日より発掘調査を開始した。

I-〔2〕発掘調査組織（省 略）

I-〔3〕調査区の概要と調査方法

柏座遺跡は、低地に向け南西方向に突き出したひし形状の台地付け根部分北西面に位置する。発掘調査部分は概ね平坦（表土掘削後のローム土直上面）であるが、調査区北東から南西ラインを嶺として、南東・北西方向へ傾斜し、北西方向は、調査区から 10m 程の地点で急激に落ち込んでいる。

I-〔4〕発掘調査日誌（省 略）

II 遺跡の立地と環境

地理的

埼玉県は関東平野の中西部に位置し、1 都 6 県に接する。県土の 7 割近くは平地が占め、東部は低地、北・南部は台地・丘陵が発達、西部は関東山地の秩父山系で区分されている。

上尾市は県の南東部の洪積台地上中央に位置し、都心より 40 k m 圏に入り、南は大宮市、西は荒川を隔てて川越市、川島町、北は桶川市、東は伊奈町、蓮田市に接する。この台地は洪積低地に高崎線と同方向に島状に形成、関東ローム層が 4～5m 堆積し、武蔵野を思わせる雑木林が繁茂しているが、標高は 15～25m と低い。

柏座遺跡は、市内中心部を南北に南流する小さな洪積低地に突き出す台地上北西面から、小さい支谷の入り口に位置し、上尾駅西口に近いことから全面に住宅地、工場、商業地で覆われ、当時の面影を残す地形はほとんど見られない。

歴史的

……。高崎線を隔てた柏座遺跡北東側は、芝川右岸上流域として、縄文～古墳、奈良時代の遺跡 1～7 が確認されている。遺跡西側の鴨川右岸域は縄文、奈良、平安時代の遺跡 12～16 が突き出た台地

に連弧上に確認されている。南西方向の浅間川沿いは古墳、奈良時代として 17・18 の遺跡が確認されている。柏座遺跡のすぐ西の小支谷を挟んだ台地上の日乗院一帯 11 と、本遺跡を載せる台地斜面 9 は、それぞれ縄文時代中期の遺跡として周知されている。……。中世から近世までの伝聞若しくは遺構のみの城館跡は、市内で 13 箇所（註 6）確認されているが、「新編武蔵風土記稿」（註 7）によると本遺跡地名の柏座村に「曾我殿屋敷村の北にありて小高き丘なり……布目瓦など出ると云、其傍に幅僅か二三尺の小渠あり……」と記され、位置は定かではないが、今回の発掘で検出された堀、掘立柱跡など関係があるとみられる。

……。上尾駅を挟んで対峙する南東方向 600m の氷川鉾神社付近は、中山道上尾宿として後北条時代より成立し、宿駅での発展は、慶長 7 年（1602）の伝馬制施行以降である。江戸時代後期の上尾宿は、家数 182 軒、人口 793 人を数え、本脇、脇本陣、高札場など重要な施設が鉾神社付近に集中していた。上尾宿が整備されると共に、現市域の東端原市が市場町として、西端の荒川縁の平方が河川交通整備により河岸場として発達した。……。

なお、「新編武蔵風土記稿」（註 7 と同じ）によると、当時柏座村は民家 28 軒、寺院は日乗院（真言宗智山派）、神社は春日神社（摂社末社 6 社）、前記の曾我殿屋敷を記すだけである。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

検出された遺構は、住居跡 11 軒、土壇 76 基、炉穴 2 基、陥し穴状遺構 1 基、ピット 303 基、堀 2 条であるが、先土器時代のユニットが 1 箇所（G-6・7 区）検出されている。時代は、第 1～10 号住居跡が縄文時代後期、第 11 号住居跡が弥生時代後期である。土壇は、大部分が縄文後期、一部が縄文時代中期、他は不詳である。陥し穴状遺構は縄文時代中期である。……。

遺物は、先土器時代及び縄文時代中～後期の石器、縄文時代中・後・晩期の土器、弥生時代後期の土器、古墳時代前期の土器である。中～近世と推定される掘立柱建物跡及びピット、堀に係する遺物は砥石 1 点でありほとんど縄文式土器以外出土していない。

Ⅳ まとめ

……。高層共同住宅の建設に伴って発掘された資料は、縄文時代後期堀之内期を中心とする規模の大きな集落であり、該期の集落としては、山下・石神遺跡（註 1）に比肩される規模である。遺跡の立地は、鴨川の沖積低地に突き出した舌状台地のつけ根北西斜面に位置し、北方向へ小支谷が入る。高低差は 3 m である。

柏座遺跡の時間的な拡がり、先土器時代より中・近世に亘るものである。G-6・7 区のユニットからは、ソフトローム層からハードローム層にかけて尖頭器・楔形石器が検出できた。縄文時代では堀之内式土器を中心に諸磯式・勝坂式・加曾利 E 式・称名寺式～安行Ⅱ式・安行Ⅲ式土器が僅かであるが検出された。弥生時代以降は後期弥生町式、古墳時代は中期泉式まで及ぶ。中・近世では、遺構を中心として堀・掘立柱建築物跡が検出されたが、該期の遺物は皆無であった。

柏座遺跡の主体は、縄文時代後期の堀之内～加曾利 B 期にかけての集落跡であり、検出された遺物（コンテナバット約 40 箱）の 9 割以上がこの時期に比定される。

遺 構

住居跡

11 軒の住居跡が検出された。時期は第 1～7・9・10 号が堀之内期、第 8 号住居跡は堀之内期終末から加曾利 B 期、第 11 号住居跡は弥生時代後期と考えられる。

土壇

土壇は 76 基検出された。これらを大別すると 5 つの形状に分けられる。

A 類（土壇内部が開口部よりオーバーハングして膨らむ類）

B 類（A 類と壇底まで同型だが壇底にピット状の深まりをもつ類）

C 類（ピット状に壁は垂直に落ち込み、壇底にピット状の深まりをもつ類）

D 類（深さにくらべ口径が大きい類）

E 類（口径に比べ深い類）

陥し穴状遺構

C-4 区に検出されたこの遺構は、単独遺構として、他の遺構といくつかの相違点が見られ、陥し穴状遺構と考えられる。・・・陥し穴は「トラップピット」とも呼ばれ、・・・。出土遺物は、縄文時代中期勝坂・加曾利E期である。

・・・このような遺構は東日本に検出例が多く、北海道・東北・多摩丘陵では顕著である。

ピット

ピットは 303 基検出されたが、縄文時代から中・近世までの時期に及ぶと考えられる。・・・こうしたピット群は、方形柱穴列として鎌倉公園遺跡・ト伝遺跡、港北ニュータウン内遺跡（註 17）で確認され、いずれも堀之内期から加曾利B期の所産とされている。

堀

堀は北東－南東方向を軸として調査区域北東端に検出された。・・・。形態は底が広い箱葉研を呈し、壁はしっかりしていた。・・・。該期の遺物は全く検出されず、堀の覆土より小さな砥石 1 点のみであった。推想であるが堀に関連した遺構は、堀の東側（調査区域外）に存在すると考えられる。更に「新編武蔵風土記稿」に記されている曾我殿屋敷（註 23）の位置は不明であるが「小高き丘なり・・・」等から考えると、本遺跡を載せる舌状台地と一致する可能性がある。曾我殿屋敷の解明は今後の発掘により全貌が明らかになるであろう。

遺 物

先土器時代

柏座遺跡から出土した先土器時代の石器は 23 点である。

石器

石鏃はすべて無茎鏃であり、平基無茎鏃は表土層出 1 点のみである。他は凹基無茎鏃である。石斧は第 6 号住居より定角式磨製石斧が出土、蛤刃を呈し石質は閃緑岩である。打製石斧は分銅型が多く、撥型・短冊型は少ない。たたき石は、全面に磨耗痕をもち、敲打痕・凹痕を有するものがある。・・・柏座遺跡では石皿が多く出土している。

以 上

上尾の歴史について(概観)

原始・古代

上尾の歴史は市内にある 400 カ所以上の遺跡から約 2 万年前の旧石器時代(先土器時代)までさかのぼれます。畔吉の殿山遺跡からは、関東地方では珍しい「国府型(こうがた)」のナイフ形石器などが出土しています。

約 1 万 2 千年前に始まる縄文時代の遺跡からは土器や石器が発掘されています。また、貝塚などから当時の上尾周辺には海があったことも分かっています。古墳時代の遺跡からは鉄剣や鏡なども出土しています。

中世

平安時代末期になると武蔵国にも武士集団が結成され、鎌倉時代は上尾周辺も含め源頼朝に仕えた足立氏の勢力下にあり、鎌倉幕府滅亡後は足利尊氏の所領となります。このころから今も上尾市に残っている「菅谷村」などの地名が文献に登場してきます。また、当時のものとして板碑が現存しており、現在約 500 基が確認されています。

近世

江戸時代に入ると、五街道が整備され、その内上尾は中山道にある 69 の宿場町の 5 番目の宿として、平方は荒川舟運の要衝としてまた、原市は市場町としての発展をします。

近代・現代

明治 16 年、高崎線開通と同時に上尾駅が設置され中山道とともに市街地形成の基礎になりました。明治末期には近代工業の先駆けとして上尾町や平方町に製糸工場が建てられ、昭和になってからは機械・金物・食品工場も操業して工業都市としての下地が作られました。

江戸時代に上尾市域に 45 あった宿・村は、明治初期に 40 となりました。その後 6 区域の町村になり、昭和 30 年 3 回目の合併で新上尾町となり、昭和 33 年県内 19 番目の市となりました。

市制施行当時約 3 万 7 千人だった人口も加速度的に増加し、昭和 45 年には 10 万人を突破、平成 20 年には市制施行 50 周年を迎え、平成 21 年 3 月現在では 22 万 5 千人を数えるまでになりました。

生涯学習課文化・文化財保護担当

市指定有形文化財(考古資料)

(ふりがな) うしろやまいせきしゅつどせきやましきどき

【文化財名】 後山遺跡出土関山式土器

【指定番号】 第 50 号

【種別】 有形文化財・考古資料

【員数】 3 点

【指定年月日】 昭和 54 年 3 月 31 日

【所在地】 上尾市教育委員会

【概要】

この関山式土器三点は、復元された深鉢形土器で、それぞれ一部を欠失するだけです。

三点の土器は昭和 46 年 3 月に上尾市教育委員会が主体となり、発掘調査された後山遺跡(上尾市大字藤波字天神前 466 番地他)から出土しました。縄文時代前期住居跡 4 軒のうち第 2 号と第 4 号から出土したものです。

後山遺跡は荒川に注ぐ江川の低地の東台地上にあり、標高 18m です。また、この遺跡は、海進が最も進んだ縄文時代前期の集落跡で市内では旧入間湾最北部に位置します。